

## コラム 緑化植物 ど・こ・ま・で・き・わ・め・る

### オウゴンカズラ (*Epipremnum aureum* Bunt.)

水庭千鶴子 (東京農業大学地域環境科学部造園科学科)  
mizuniwa@nodai.ac.jp



この植物は、和名の「オウゴンカズラ」というよりも、通称名である「ポトス」と記した方が一般に浸透しているであろう。室内で用いられる緑化植物の代表と言っても過言ではないほど誰もが一度は目にしたことがあるもっともポピュラーな観葉植物である。園芸品種がいくつかあり、繁殖が挿し芽で容易にできることや育てやすいことから広く利用されている。もともとの原種は真緑の葉色であるが、和名のオウゴンカズラは、不規則に黄色の鮮やかな斑が入ることから、学名にも種名に aureum (黄金) がつけられており、英名のゴールドポトス (golden pothos) を和訳したものと考えられる。その他によく流通しているものでは、突然変異から固定された園芸品種で、葉色が一樣にライム色であるポトス 'ライム' (cv. "Lime"), 白い葉に緑の斑が入るポトス 'マーブル・クィーン' (cv. "Mable Queen") などが良く知られている。

常緑のツル性多年草に分類され、吊り鉢に植えて下垂させたり、ヘゴや支柱などをたててツルを登はんさせたりと好みに応じた仕立てができる。同じ株から分けたものでも下垂させて生育させると小さな葉を、登はんさせて生育させると大きな葉をつけるようになる。また日本で観賞するのは幼葉で、熱帯地方では葉が巨大になり、切れ込みが入るといったことだ。葉が長年着生するのも、容易な管理につながる。

原産地はソロモン諸島で、明治時代に日本に入ってきたとされている。原産地ではジャングルの中で下草として生育しているため、生育適温は 20~30 程度で、本来は半日陰で良く育つ。日本では、夏季の直射日光下では葉やけを起こすことも知られている。逆に冬季はなるべく日当たりがよい場所や明るい場所に置くほうがよく、園芸品種の違いにより異なるが 5~10 程度が越冬の限界温度といわれている<sup>1)</sup>。

ポトスという通称名は、以前の分類ではサトイモ科ポトス属とされたためであり、サトイモ科エビプレナム属になった現在でも古い属名で呼ばれている。ちなみに、分類学上のポトス属というのは台湾や中国南部に自生するユズノハカズラなどを含む別の植物群の名称となっている。

今回、室内緑化植物としてオウゴンカズラを取り上げたが、室内緑化の必要性として、植物を用いた空気浄化機能に着目して述べたい。この研究の諸端は Wolverton による NASA での研究報告<sup>2)</sup>によるもので、植物のもつ空気浄化作

用についての一連の研究をまとめたレポートが注目を浴びた。そのころ、宇宙でのスペースシャトルや宇宙ステーション内の閉鎖的な空間における空気汚染や、アメリカにおいては高気密ビル内におけるシックビルディング症候群などの多くの問題が起こり、その解決策として、植物を用いた空気浄化能の研究が盛んに行われた。植物が根や葉から水分や養分、空気中の二酸化炭素を吸収する能力を利用して、土壌や地下水中、大気中の汚染物質を吸収、分解する技術 (ファイトレメディエーション (phytoremediation)) に注目が集まったのもこの頃である。植物が空気を浄化するのは、植物の根圏を形成する根粒菌などの微生物の働きによる相乗効果を含むこともあり、バイオレメディエーションの一種とされている。室内の空気汚染物質としてあげられる物質は、ホルムアルデヒド、トルエン、キシレンなど、生活環境や新建材などから発生する物などが対象となっている。我が国においては家の中で起こったため、シックハウス症候群、学校などの教室で起こったためシックスクール症候群と呼ばれるが、原因や症例などは様々である。また、さらに化学物質過敏症を引き起こすこともある。厚生労働省の近年の規制により、一時期ほど社会問題に取り上げられなくなったが、いつまた同様の問題が浮上しないとも限らない。

都市では、建築物の屋上や壁面などの緑化が増えてきているが、室内緑化に関しては、一時期アトリウムが非常に注目されたのみで、未だに植物は単なるインテリアとして利用されることの方が多い。今後、私たちの生活が少しでも快適になるように取り込む努力と工夫として植物の空気浄化機能に着目し、蒸発散による自然の加湿器の機能を備えている点と有害物質の除去効果の相乗効果を利用していくことも大切ではないだろうか。もちろん自然あふれる環境下で生活ができるのであれば、それが一番望ましいとは言えるが、都市でエコライフを実践していくには、少しでも植物を身近に取り込む工夫から始めることが大切ではないだろうか。

#### 引用文献

- 1) 土橋 豊監修 (2006) 観葉植物事典, 池田書店, pp. 28-29.
- 2) Wolverton, B.C., Anne, J. and Keith, B. (1989) Interior landscape plants for indoor air pollution abatement. NASA/ALCA Final Report, pp. 1-22.